

学校名： 安芸太田町立戸河内小学校

授業者： ●● ●● 教諭

教材作成者： ●● ●● 教諭

授業日時	令和3年1月22日(金)	教科・科目	算数科
学年・年次	第3学年	児童生徒数	6名
実施内容	棒グラフと表	本時/この内容を扱う全時数	7/10
教科書及び教科書会社	新しい算数3下 東京書籍		

授業のねらい(本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)

1目盛りの大きさが違う複数の棒グラフを比較することにより、同じデータでも1目盛りの取り方により見え方に違いが出ることを知り、棒グラフの表し方の工夫を理解する。

メインの課題(授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)

どのグラフが分かりやすいかな。理由を考えましょう。

児童生徒の既有知識・学習の予想(対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)

○分かりやすいグラフを選ぶことはできると思うが、どうしてそれがよいのか具体的な理由は答えられない児童が半数以上であると考える。

期待する解答の要素(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)

- 同じデータでも棒グラフの1目盛りの大きさを変えると、グラフの見え目は大きく変わる。
- グラフの先端が目盛りと重なっている方が、数値を読み取りやすい。
- 表の数値の最大値を見て1目盛りの大きさを考えると、多い少ないの差が分かりやすいグラフになる。

各エキスパート<対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください>

[エキスパートA]

○同じデータを表していても、1目盛りの大きさが違うと、グラフの見え方は変わることに気づく。

[エキスパートB]

○棒の先端が目盛りと重なっていると正確な人数が読み取りやすいことに気づく。

[エキスパートC]

○表の数値の最大値から適切なグラフ用紙(目盛り)を選ぶことで、多い少ないの差が分かりやすいグラフを作れることに気づく。

シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
なし

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	<ul style="list-style-type: none"> ○データに着目して「正」の字を使った表への整理の仕方を考える。 ○棒グラフの棒の長さに着目して棒グラフに表すよさを考える。 ○棒グラフの書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「正」の字を使って正しく表に整理することができる。 ○棒グラフで表を整理する良さに気づくことができる。 ○棒グラフの書き方を理解し、データを棒グラフに表すことができる。
前時	<ul style="list-style-type: none"> ○1目盛りの大きさに着目して棒グラフが表す大きさを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1目盛りの表す数量に着目して棒グラフを読みとることができる。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ○1目盛りの大きさが違う複数の棒グラフを比較することにより、同じデータでも1目盛りの取り方により見え方に違いが出ることを知り、棒グラフの表し方の工夫を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1目盛りの表す大きさや棒の長さに着目してグラフを比較し、表し方の工夫について考え説明している。
この後	<ul style="list-style-type: none"> ○けが調べのデータをもとに、見やすく表すための整理の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二次元表の表し方と、特徴の調べ方を理解することができる。

上記の一連の学習で目指すゴール
<ul style="list-style-type: none"> ○棒グラフの特徴や使い方、分類整理の方法について理解し、グラフや表を読み取ることができる。 ○問題解決のためのグラフを正しく読み取り判断し、結論を考察することができる。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	1 本時の学習課題をつかむ。 ・美化委員が集計したデータを全校に示す際に、どんなグラフにしたらみんなが分かりやすいかを考えていくこと確認する。	
2分	2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">分かりやすいぼうグラフを作るには何にきをつけたらいいかな。</div>	
6分	3 エキスパート活動をする。 [エキスパートA] ・同じデータを基にしたグラフなのに見える方が違う理由を考える。 [エキスパートB] ・正確な人数が読み取りやすいグラフについて考える。 [エキスパートC] ・表の最大値から適切なグラフ用紙（目盛り）を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらのエキスパートも、同じデータをグラフに表していることを確認する。 ・困っている児童には、グラフの棒の長さ以外で、①と②のグラフのどこが違うかを探させる。 ・よい理由が難しい場合は、どうして他のものが適切ではないかの理由を考えてもいいと伝える。
12分	4 ジグソー活動をする。 ・見やすいグラフを選び、理由を考える。	
14分	5 クロストークをする。 ・各班で選んだ棒グラフを出し合い、なぜそのグラフを選んだのか理由を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・②を選んだ理由として、①も差は分かりやすいこと、③もほとんどグラフの先が目盛りに重なっているのにどうして②なのかを聞いていく。
4分	6 まとめをする。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼうの先が目盛りに重なるようにする。 ・差が分かりやすいグラフにする。 <li style="text-align: center;">↓そのため ・1目盛りの取り方に気をつける。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じデータなのに「分かりやすいグラフ」とそうでないグラフになってしまう理由を聞き、「1目盛りの大きさ」に着目させる。
2分	7 振り返りをする。	

グループの人数や組み方

エキスパート班は、（2人×3班） ジグソー班は、（3人×2班）